

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は共有し、ケアサービスの実践につなげている。昨年、職員・運営推進会議でも検討し新しい理念を作成した。	「どなたでも気軽に来られ、利用者様が自分らしく心安らぐ居場所になるよう支援します」という理念のもと、地域に溶け込んだ事業所、利用者本位の支援を目指し日々の実践に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	極近所の方との挨拶や地域行事への参加、また毎月の広報誌の呼びかけに応じて、地域の方がペットを連れて遊びに来られている。	日常の挨拶をはじめとして、近所の方々とはごく普通の付き合いをしており、散歩の途中に立ち寄ってくれる人もいる。町内の行事には必ず参加し、小学校とは定期的に交流している。広報紙を回覧し情報発信している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	毎月、事業所に居られる認知症の方々への生活については、地域の方々へ広報誌を通じて情報発信している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回、運営推進会議を開催し、委員の方々から頂いた意見を、その後のスタッフ会議にて検討し、サービス向上に取り組んでいる。	2カ月に1回開催され、事業所の活動状況や利用者の状況、現在取り組んでいること等を報告し、意見交換が行われている。意見はスタッフ会議で検討しサービス向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	上越市高齢者支援課の担当者の方に運営推進会議へ参加をお願いしているが、参加は頂いていない。会議の議事録の送付をしている。	包括支援センター職員から運営推進会議への出席を得ている。市の担当者には議事録を送付して情報共有に努めており、必要があればいつでも相談に応じてもらえる関係ができています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠は行っていないが、日常のケアの中で利用者拘束に繋がらない様に取り組んでいる。言葉の拘束が課題である。	「ちょっと待ってね」「もう少し座っていてね」等、日常のケアのなかで拘束に繋がるような場面が見られた時は、ミーティングでそのことについて話し合い、抑圧感のない自由な暮らしの支援に向けた努力をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	(5-2)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止関連法について全職員が周知しておらず、学ぶ機会ももたれていない。ただ、虐待防止についての意識付けはミーティング等で触れており、注意を払っている。	ミーティングで虐待についての話をしており、職員は決してあってはならないことと意識して支援にあたっている。管理者は職員の疲労やストレスが利用者にも及ぼす影響を理解しており、常に気を配っている。	今後は高齢者虐待防止関連法についての勉強会を実施する等、理解浸透を図るとともに、順守に向けた更なる取り組みが行われることを期待したい。
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者は、管理者研修にて学んでいるが、制度について全職員が周知していない。現在成年後見制度を利用している方が居られるので、今後学ぶ機会を取り入れて行きたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分に説明させて頂き、理解を頂いた上で契約している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	第三者機関を設けていると共に、広報誌の発送の際に意見を頂くような声掛けや意見を言いやすい雰囲気作りに努めている。またご家族を行事にお誘いし、意見を頂くように努めている。	利用者については、日々の関わりの中で職員が察知し対応するよう努めている。家族からは、面会や行事で来所した際に声をかけて聞くようにし、意見等を反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	カンファレンスや毎月のスタッフ会議にて話し合い反映させている。	毎月のスタッフ会議やカンファレンスで、ケースのこと、行事のこと、その他何でも話し合い運営に反映させている。また、年2回の個別面談でも意見や要望を聞いている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課を取り入れており、半期ごとに評価を行い、目標設定し、向上心を持って働けるような環境となっている。臨時職員には人事考課を行っていないが、半期ごとに話し合う機会を持ち目標を確認している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内にてカリキュラムが確立されており、経験年数等によって研修に参加している。また、法人内GHで新人職員に向けて「認知症の理解」についての研修会を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内で地域密着型施設の施設長会議を毎月開催し、情報共有や研修会を通じてサービスの質の向上に向けて取り組んでいる。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者の話に真摯に耳を傾けている。また、今までの暮らしぶりをお聞きしたりご意向を確認し、ご本人を支援するよい関係作りとなるべく努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の話に真摯に耳を傾けている。また、ご意向を確認し、ご本人を支援するよい関係作りとなるべく努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所前の事前面接の段階でご本人やご家族の意向を確認し、初期の段階よりご本人の求めておられるサービスの提供が出来るよう支援している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人の持つておられる力や出来る力を強みに捉えて、日々の暮らしの中で、職員と共に暮らしを支えて頂ける様な支援をしている。		
19	(7-2)	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員とご家族が一緒にご本人を支えて行く為に、常にご家族に報告したり、相談させて頂いている。	隔月に担当が利用者の様子を写真入りのお便りで家族に報告し情報を共有している。ケアプランが変わる時は本人・家族・職員で相談し、家族には無理がない範囲で協力をお願いし、共に支えていく関係を築いている。	
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	いつでもご家族や知人・友人が訪ねて来て頂けるよう配慮している。散発・通院等今まで利用されていた所へ、ご家族の協力で利用されている方も居られる。	「盆だから」「正月だから」と知人や友人、親戚の方が訪ねて来てくれたり、友人の子供が時々電話をかけてくれる。馴染みの美容院に家族が連れて行ってくれる等、一人ひとりの習慣を大切に継続できるよう支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士がお互いの居室を行き来されたり、一緒に外出したり、リビングでの会話が自然と出来るように配慮している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用者が退去された後は、他の施設へ入所された場合は面会に訪れる場合はあるが、支援はしていない。退去にあたりスムーズに移行出来る様に支援はしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者一人ひとりのニーズを把握するように努めている。言葉で表現できない方は、普段の生活の中から表情・行動等で探りながら、職員間で検討して支援している。	日々の暮らしの中で意向を聞きとったり、表情や行動から思いを把握するように努めている。また、担当職員がセンター方式のアセスメントシートに記入し職員間で検討している。	
24	(9-2)	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	今までの暮らしや、生きて来られた背景を職員が把握する事は重要と考え、入居前にご家族やご本人からの情報を大事にしている。また入居された後もあらゆる機会に捉えることが出来るように努めている。	入居前に自宅を訪問し、今までの暮らし方について本人や家族から聞き取りを行っている。入居してからも日々の関わりの中で、趣味や好み、馴染みの関係や習慣等把握に努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	カンファレンス時や日々の職員間で共有している。(介護日誌等)		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成担当者と居室担当者が中心となり、ご本人の意向や状態を踏まえて、よりご本人らしく生活して頂けるような介護計画を作成している。また毎月担当者がモニタリングを行い、計画的に総括を行っている。	本人の意向や状態を踏まえた介護計画が作成されている。毎月のモニタリングと3か月毎の見直し、サービス担当者会議には本人・家族も参加して話し合いが行われ、現状に即した内容となっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の生活の様子やケアの実践・結果・気づきを記録し職員間で共有している。また、毎月居室担当者がモニタリングを行い、定期的に計画作成担当者が総括を行い介護計画の見直しを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	限られた職員の中で、ご本人ご家族のニーズを捉え、なるべく柔軟な支援をするべく取り組んでいる。職員だけでなく、地域住民の方々やボランティアの力を取り組んで行く事が、今後の課題である。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域密着型施設であるものの、地域との連携はまだ途上である。老人会や畑の耕作に協力頂いたり地域の方々との交流を始めたところである。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人やご家族の意向を確認し、受診に繋がっている。協力病院へは定期的に受診している。ただ内科医へのかかりつけが今ない状態なので、今後の課題である。	入居前のかかりつけ医は継続されており、専門医のいる協力病院には職員の付き添いで定期的に受診している。受診の際は受診連絡票で報告し、医療機関との関係を築いている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	グループホームでは常駐の看護師はいないので、グループ内の看護師に適宜相談し指示を受けている。また協力病院やかかりつけ医の指示を仰ぎ支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	協力病院とは、常に連絡を取り合い関係作りを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期の支援は行っていない。代表者が認知が進行されて重度となった場合は、対応できる施設への移行を考えるようにとの考えのため、入居された初めより、その旨をご家族にお伝えしている。施設移行の際は、十分な話し合いを行っている。	契約時に、終末期の対応は行っていない事、重度化した場合は対応できる施設への移行を支援する旨を家族に説明している。施設移行の際は、家族や主治医、関係者と話し合いが行われ本人の状態に応じた対応を心掛けている。	
34	(12-2)	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	訓練については、年1回グループ内(母体)にて行っている。	急変や事故発生時の対応マニュアルは整備されている。年1回、全職員が消防署職員により心肺蘇生とAEDの操作の講習を受けている。	マニュアルは整備され、訓練は行われているが、一人体制時の対応に職員が不安を感じている。急変や事故発生に備え、全職員が実践力を身に付けることが望まれる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を行い、避難方法は身につけているが、職員の異動があり全職員までついていない。地域の方々との協力体制は築いている途中である。8月町内の防災訓練の参加・GHの避難訓練に地域の方々の参加があった。	避難訓練は夜間想定も含め、地域住民の参加・協力を得て定期的に実施されている。町内の消防職員には日ごろから相談にのってもらいながら地域との協力体制を築き、災害に備えた備品も整備されている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	認知症という病気を持った一人の人として尊重した言葉かけや対応を行っている。	一人ひとりに寄り添い、丁寧に説明しながら本人のできる事を気持ちよくしてもらうように働きかけている。排泄場面では自尊心を傷つけないように、羞恥心に配慮しながらそっとさりげない声掛けや誘導を心掛けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	働きかけをしているし、心がけている。なかなか思いを表現できない人に対してあらゆる場面で支援できているかは、課題である。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースに合わせた暮らしを支援するよう努めている。9人の方一人ひとりの希望をすべて支援できているかは、共同生活介護の枠の中では困難であるが、職員の意識付けは出来ている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着たい服を着て頂く、好きな髪型や髪の色等ご本人意向を踏まえた支援をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	各々の好み沿った、また季節のものを取り入れたメニューにしている。一人ひとりの力に応じて職員と一緒に調理作業を行ったり、後片付けも毎食後に一緒に行っている。	畑で作った旬の野菜が調理され、利用者が下ごしらえや盛り付け、後片づけを手伝っている。誕生日には本人の好きなメニューが食卓にならび喜ばれている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスに関しては、グループ内の管理栄養士よりメニューの内容について報告を行い、チェックを受け必要時には、改善している。その他の支援は、出来ている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、声掛けにて行っている。介助が必要な方、見守りが必要な方、一人ひとりの状態に合わせて行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	記録等で排泄パターンを把握したり、利用者の行動や仕草等観察し、必要に応じて誘導している。失敗にて自尊心を傷つけないような配慮や直ぐに紙パンツ等の使用に移行しないように配慮している。	一人ひとりの排泄パターンを把握して個別の対応が行われている。羞恥心や不快感、失禁用具の取り扱いや臭いにも配慮しながら、トイレでの排泄を支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便の観察を行い、直ぐに薬に頼らないように食事や飲み物を工夫したり、十分な水分を取っていただくように配慮している。屋内・屋外での散歩や体を動かすレク等を取り入れ予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	毎日入浴はして頂いている。ただ時間帯については9人の共同生活であるので、一人ひとりの希望に沿った入浴となるように心がけているが、全員の方の希望を満たしているかは疑問である。	毎日、午後入浴を基本としている。本人の希望を聞きながら、同性介助や入浴剤、菖蒲湯やゆず湯等、ゆっくりと気持ち良く安全に入浴できるよう配慮している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの今までの暮らしが繋がるように環境を整え、安心して休んで頂ける様に支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	理解と確認に努めているが、全利用者となると全職員がそこまでの把握は難しい。今後、全職員が全利用者の把握が出来るように努めたい。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりが張り合いを持って日々暮らして頂ける様に、ご本人の出来る力や持っておられる力を活かし楽しみに繋げて支援している。生活暦のみに捉われず、今の生活を楽しんで頂ける様無理のない範囲で支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	なるべく希望に沿うよう支援している。日常的には戸外への散歩や買い物・季節を感じて頂ける様なその時々に合わせて外出を取り入れている。時には温泉や外食も楽しんで頂いている。	散歩や買い物、ドライブは日常的に行っている。花見や紅葉狩り、外食等の事業所行事、祭りや運動会、敬老会等の地域行事には家族や地域ボランティアの協力がある。利用者全員で行く温泉旅行は特に喜ばれている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本部の方針にて日常的にお金を持って頂いていない。ただ、お金を使う事を理解されている方には、お金を使う場面を支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族からの電話や手紙は、自由にして頂いている。ご本人も希望があれば好きな時間に電話して頂いている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者が安心して過ごして頂ける様に、一般家庭に近い環境となるように配慮している。廊下には活動写真・リビングには手作りカレンダーを掲示し時間や季節が判るように工夫している。	家庭的な雰囲気の中で一人ひとりが思い思いに過ごしている。季節に配慮した装飾や活動写真が掲示され、ソファや家具の配置、採光、4か所あるトイレは順番を待つことなく使用でき、窓からの眺めも良く、居心地よく過ごせるように工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	限られた狭い共有空間であるが、利用者同士が交流できるようにソファの位置を工夫している。狭い空間の中でも一人になれたり、お互いの交流が持てる空間作りが今後の課題である。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は4畳半と狭い為、ベッドを入れておられる方は一段と狭くなっている。入居の際には使い慣れたもの等を持ち込んで頂く様お願いしている。居室担当者を中心にご家族とも協働してご本人がより寛げる空間となるように配慮している。	4畳半の居室は、家具や寝具の配置を工夫して心地よい空間が作り出されている。馴染みの品物が持ち込まれ、本人の趣味や好みを生かした装飾で個性が反映され、自分の部屋になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手狭な空間であるが、その場所がどのような意味を持った場所かがわかるように工夫している。		